[『5本の樹』計画（積水ハウス株式会社）]

課題（状況）

・地球温暖化、生態系の保全など「持続可能性」が求められていた。「生物多様性の保全」を『住宅の庭』で守り、生きものと関わって生態系の回復を図ることができないか。
①自然、生態系の回復の拠点として住宅を位置づける
②住まいづくりでの“持続可能な庭（＝いきものの来る庭）”の追求

目標

持続可能との観点から鳥や昆虫にとって有用な樹種を中心の植栽を実現する（見た目の美しさだけではなく生態系に配慮）。

『5本の樹』計画ー在来種中心の植栽
（鳥のために3本、蝶のために2本）

地域資源/産学連携等

・自社の樹木医
・環境NPO（シェアリングアース協会）
・植木業者/造園業者（在来種の植樹・育成など）

政策（補助金等）/規制

具体の取組内容

①取組内容・スケジュール
・持続可能な庭＝『生きものの来る庭』との考えの確立及びこれの在来種による実現
・植木生産者との連携による市場流通量の拡大
・お客様への提案資料「庭木セレクトブック」作成（以上、平成12年～13年）
・生きもの調査実施（植栽の効果を検証するため生きものの種類と量を調査－平成20年より）
・個人住宅から賃貸住宅・マンションへ拡大

②予算など
・在来種による植栽はコスト負担を軽減（それまでの園芸種/外来種は在来種よりコスト高）

成功要因

・社会的ニーズの『創出』と顧客の理解・協力の獲得（自社の営業マンの意識変革と顧客への提案）
・マーケットの創出と植木生産者とのWin-Win
・経営トップの環境重視の姿勢の明示

成果

・2001年（平成13年）の事業開始から植栽実績1千万本超を実現
・「在来種」市場の確保とサプライヤーの育成
－在来種生産がビジネス領域として普及、「生態系に配慮した緑化」が一般化

地域の変化

・造園業界でも『管理し、愛でる庭』から『生態系を育む庭』へと生物連鎖を考えるように変化

残る課題

・『平面の庭』から『垂直の壁面緑化』への拡大
－都市部の緑化対策としてのマンション等での壁面緑化の実現

次の行動

・大阪北にある本社での壁面緑化の試行
－本社所在地に「希望の壁」という世界最大規模の壁面緑化を実証実験中、コスト削減が問題。